事務事業評価シート（評価実施年度：平成２７年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ－５－２　地域生活交通の確保

１.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	交通対策課長　伊藤　宏	電話番号	0852-22-5898

事務事業の名称		隠岐航路運航維持事業
目的	（１）対象	隠岐航路を利用する県民等
	（２）意図	隠岐本土、島前島後、島前内の安定した運航と利用しやすいダイヤを確保する。
事業概要		隠岐島民の生活を支える隠岐の海上交通確保を図るため、隠岐広域連合の「フェリーおき」の買取り及びジェットフォイルの整備、島前町村組合の内航船「フェリーどうぜん」、「いそかぜ」、「いそかぜⅡ」の建造に要した経費の一部を支援する。

２.成果参考指標

			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
(1) 成果参考指標	指標名	隠岐航路全体の就航率	目標値		95.00	95.00	96.00	96.00	%
	式・定義	隠岐航路の就航便数／隠岐航路の計画便数	実績値	93.80	94.10	90.80	94.30		
			達成率		99.10	95.60	98.30		%
	指標名	隠岐航路利用者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		440,000	440,000	440,000	440,000	人
	式・定義	隠岐航路利用者数	実績値	438,390	424,847	421,820	426,467		
			達成率		96.60	95.90	97.00		%

３.事業費

	２６年度実績	２７年度計画
事　業　費（b）（千円）	77,819	108,160
うち一般財源（千円）	77,819	108,160

４.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）

５.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成２６年度の隠岐航路全体の就航率は９４．３%と前年度（９０．８%）を上回った。
・平成２６年度の隠岐航路の利用者数は４２６，４６７人と前年度（４２１，８２０人）を上回った。
　その内訳を見ると、超高速船の利用者数が増加（前年度比＋１６，８５６人）している一方で、フェリーの利用者数は減少（同△１２，２０９人）している状況。

６.成果があったこと（改善されたこと）

・平成２６年３月から就航した超高速船「レインボージェット」は、耐波性に優れ、前身の「レインボー２」に比べ就航率が向上。島民を始めとする利用者の利便性向上に大きく寄与している。

７.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・隠岐航路の維持のためには、運航事業者の経営安定が不可欠であるが、隠岐航路の利用者数は長期低落傾向にある状態。特に観光客の利用が伸び悩んでおり、交流人口の拡大を図るため積極的な施策の推進が求められる。

②困っている状況が発生している「原因」

・隠岐航路の運賃は、陸上のバスや鉄道などの公共交通機関と比べると２倍～２．５倍程度割高であり、島民や観光客など、利用者からも運賃を引き下げる要望が多く寄せられているところ。

③原因を解消するための「課題」

・運賃低廉化は運航事業者の経営に大きく影響を与えるため行政支援が必要となるが、その実現には多額の財源が必要。
・離島振興法に基づく離島活性化交付金については、人の移動に活用できるメニューが示されていない。

８．今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・島民生活を支え、観光振興に不可欠な隠岐航路は、中長期的には旅客需要が減少傾向にある。このため、交流人口の拡大に向けて、隠岐航路の利用者サービス向上の取り組みが進むよう促していく。
・隠岐航路の運賃は、本土の公共機関と比較して割高な運賃水準にあることから、運賃低廉化が図られるよう重点要望等の機会をとらえ、積極的に国に働きかけていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

９．追加評価（任意記載）